

新居浜工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	101220			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	機械工学科			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』（二宮書店）『新詳 高等地図帳』（帝国書院）					
担当教員	加地 至					
到達目標						
1. 一般図・主題図・グラフ・統計・写真などの資料を読み解き，正しい地理的情報を収集・分析する技能を身につける。 2. 世界・日本の諸地域の特色ある自然環境や生活文化を理解し，国際的な視野に立つて多様性と共生を考えることができる。 3. 地理的なものの見方や考え方をともに，身近な地域から地球的規模の諸課題について公正に判断し，行動できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	設定した目的に沿って，統計データを入手・処理し，主題図やグラフに表現することができる。		一般図・主題図・グラフ・統計・写真などの資料を読み解き，正しい地理的情報を得る。		資料を読み解くことに無関心で，自ら進んで地理的情報を得ようとしない。	
到達目標2	世界・日本の諸地域について旺盛な好奇心をもち，地域社会・国際社会のために貢献しようとする。		世界・日本の諸地域の自然環境や生活文化を理解し，国際的な視野で多様性と共生に関心をもつ。		世界と日本の諸地域における自然環境・産業・生活文化の多様性を理解しようとしない。	
到達目標3	身近な地域から地球的規模の諸課題を理解し，自覚的な生き方や行動について考えようとする。		地理的なものの見方や考え方をともに，多様なスケールで諸課題について考えることができる。		地理的なものの見方や考え方が習得できておらず，現代の諸課題について考えることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教養 (D)						
教育方法等						
概要	「地理」では，ある広がりをもった地域や場所について考えます。主要なテーマは，地形や気候などの自然，農業・工業といった産業，言語・宗教・衣食住も含めた生活文化，現代社会が直面する諸課題です。					
授業の進め方・方法	講義形式で行います。					
注意点	然現象や社会的事象が生起する広がりには，日常接するごく狭い場所から地球規模までさまざまなものがあります。身近なことがらだけでなく，世界で起きていることにも想いをめぐらすことのできる豊かな想像力が必要です。					
本科目の区分						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	地球上の緯度と経度・時差と標準時		1	
		2週	地図の図法・主題図とグラフ		1	
		3週	読図の基礎と演習		1	
		4週	領域と国家の結びつき		1..2	
		5週	変動帯とプレート		1.2	
		6週	河川がつくる地形と生活		1.2	
		7週	海岸の地形と生活		1.2	
		8週	中間テスト		テストを実施する	
	2ndQ	9週	大気循環と気候の地域性・気候区分		1.2	
		10週	熱帯・乾燥帯の自然環境と生活		1.2	
		11週	温帯・亜寒帯・寒帯の自然環境と生活		1.2	
		12週	農業の発展と生活文化		1,2	
		13週	工業・サービス業の発展と生活文化		1,2	
		14週	宗教・言語と生活文化		1,2	
		15週	期末テスト		テストを実施する	
		16週	テスト返却期間		1,2	
後期	3rdQ	1週	東アジアの生活文化		1,2	
		2週	ASEAN諸国・南アジアの生活文化		1,2	
		3週	イスラーム圏・アフリカの生活文化		1,2	
		4週	EUと周辺諸国・ロシアの生活文化		1,2	
		5週	アメリカ合衆国・カナダの生活文化		1,2	
		6週	ラテンアメリカの生活文化		1,2	
		7週	オセアニアの生活文化		1,2	
		8週	中間テスト		テストを実施する	
	4thQ	9週	環境問題と持続可能な社会		1,3	
		10週	資源・エネルギー問題		1,3	
		11週	人口・食料問題		1,3	
		12週	居住・都市問題		1,3	
		13週	日本の地形と気候の特色		1,3	

		14週	風水害・地震・津波・火山と防災	1,3		
		15週	期末テスト	テストを実施する		
		16週	テスト返却期間	1,3		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	社会	社会	世界各地の人口、資源、産業の分布や動向、並びにそれらをめぐる地域相互の結びつき等について理解し、現代社会を地理的観点から説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				人間と自然環境との相互作用を前提としつつ、民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	2	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	2	
				第二次世界大戦以降、冷戦の展開と終結、その後現在に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	2	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	2	
				これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにしつつ、より良いキャリア構築を含む生涯にわたる多様な自己形成に関する考え方、他者と共に生きていくことの重要性、及び望ましい社会や世界のあり方について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理と基礎的な政治・法・経済の仕組みを理解し、現代社会の諸課題について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

				現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定し、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
--	--	--	--	---	---	---

評価割合

	試験	課題・発表・意欲		合計
総合評価割合	60	40	0	100
基礎的能力	60	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0